

会議名	令和 6 年度 第 5 回愛荘町健康づくり協議会 会議録
開催日時	令和 7 年 2 月 7 日（金） 13 時 15 分から 14 時 50 分まで
開催場所	愛荘町役場 庁舎別館 2 階 多目的室
出席者	【委員】 10 人 矢部隆宏 曾我幸史 西村ふき子 宇野久七郎 上林如子 小川俊子 平野雅穂 村西範彦 （代）水谷英紀 小財敬子
欠席者	【委員】 中村恭子 稲岡智加
事務局	木村政策監（兼健康推進課長）・堀参事・北村課長補佐 小林課長補佐・畑
傍聴者の数	0 人
議題	健康あいしょう 2 1（第 5 期）計画について
審議内容	○計画本編・概要版の最終確認 ○計画書の周知方法、各機関の取り組みの方向性について
問い合わせ先	健康推進課 担当 畑 あやの 連絡先 0749-42-4887

令和6年度第5回愛荘町健康づくり協議会会議録

日時：令和7年2月7日（金）午後1時15分～

場所：愛荘町役場 庁舎別館2階 多目的室

（開 会）

○あいさつ

1. 報告事項

(1) 第4回健康づくり協議会のまとめ

【資料1】

(2) パブリックコメントのまとめ

【資料2】

2. 協議事項

(1) 計画本編・概要版の最終確認

【資料3】

【資料4】

(2) 計画書の周知方法、各機関の取り組みの方向性

3. その他

（閉 会）

事務局：ただ今から令和6年度第5回愛荘町健康づくり協議会を開催する。開会にあたり、協議会会長の矢部様よりごあいさつをお願いする。

矢部会長：本日も出席いただき感謝する。今回が今年度の最終の5回目となる。それぞれの皆様のお立場から貴重なご意見をいただきたいのでよろしくお願いします。

木村政策監：本日、第5回の愛荘町健康づくり協議会に忙しい中お集まりいただき感謝する。始まる前に青木宏樹さんの『「老い方」道しるべ』という本を紹介したい。愛荘町にお住まいの現役の健康推進員であり、認知症キャラバンメイトもしてくださっている方が、誕生日が昭和15年2月22日で、ちょうど85歳になる日に本を出版された。青木さんは、へそと言われる滋賀県の琵琶湖から、愛荘町から健康寿命を延ばしたいという思いで、自分が実体験されたことを著書にまとめられた。愛荘町にこういう方がいてくださることを誇りに思いながらも、みんなで健康づくりを進めていきたい。楽天、Amazonでも買えるので、ぜひ購入していただきいと青木さんから言われている。会長からもあったが、今日がいよいよ最終回となる。今年は5回ということで、何回もお集まりいただき、いい計画書の策定にお力添えいただき感謝申し上げる。4回目の会議のあと、12月25日から1月24日までパブリックコメントを実施し、9件のご意見があった。内容についても本日報告事項の中で確認していただきたい。協議事項が2件あるので、忌憚のない活発なご意見をいただき、より良いものにしていきたい。本

日もよろしく願います。

事務局：中村委員、稲岡委員より欠席の報告を承っている。資料の確認をした。会議要綱第8条第3項の規定により、これから先は矢部会長に議事の進行をお願いする。

矢部会長：第に従って進行する。次第1「報告事項」、(1)「第4回健康づくり協議会のまとめ」(2)パブリックコメントのまとめについて、事務局から説明をお願いする。

事務局：資料1、資料2、資料3について説明をした。

矢部会長：ただいまの報告について、意見、質問はあるか。

平野委員：だいぶ修正していただき、かなり良くなった。37ページ、愛荘町の計画を横棒で示していて、下に文字で国と県の計画の期間を書いているが、スペースがあれば、字ではなくて愛荘町の図と同じように示してはどうか。検索すればほかの市町の計画が見られるので、参考にして視覚的に分かりやすくしたほうがいいと思う。パブコメの結果は公表するのか。

事務局：愛荘町のホームページで公表している。

平野委員：パブコメも、よく読んでくださっている意見で驚いた。いいと思う。

矢部会長：だいぶおほめの言葉をいただいた。歯科健診は公費でやっているところはあるのか。

曾我委員：後期高齢者は公費でやっているが、一般の方はしていない。

事務局：愛荘町は妊婦の方は公費で歯科健診を受けることができる。

事務局：他市町では歯周病健診として節目で歯科の健診をしているところもある。

矢部会長：若い方の歯科健診も公費で出せばいいと思った。ほかにご意見はないか。では、次の協議事項に移る。(1)について説明をお願いする。

事務局：資料3、資料4について説明した。

矢部会長：ただ今の説明について、ご意見はあるか。

曾我委員：概要版の最後のチェックリストの「身体活動・運動」に「今より10分長く歩いていますか？」とあるが、日本語として分かりにくい。なるべく歩くようにしているかとい

うことを聞きたいのだろうが、歩くだけでなく「日頃から体を動かすことを心がけていますか？」という言い方でもいいと思う。「アルコール」に「休肝日をつくっていますか？」とあるが、適正飲酒量を守ることのほうが大事だと個人的には思う。

矢部会長：そのほうがいいと思う。

木村政策監：実際、適正量を毎日飲み続けるのと、2～3日休肝日設けるのはどちらがいいのか。

矢部会長：1日に1合前後で、かつ週に2日連続して休肝日を作るのが理想。「アルコール量は適量ですか」という質問を入れてもいいと思う。健康づくりのための意識的な運動習慣について、10代は結構運動していて、その次は60、70歳以上である。時間的な余裕と、健康に対する危機意識が60歳以上になってから増えると思う。2025年問題として、第1次ベビーブーム世代の人が75歳になって後期高齢者が増える。若い人の負担にならないようにギリギリまで健康であることが高齢者の義務だと思う。そのために健康的な生活をしてもらうことが必要だと思う。

平野委員：概要版の作り方は個性が出る場所なので、愛荘町が訴えたいことを書けばいいと思う。前向きに取り組んでいくことを書いてもいいし、今、実際に課題になっていることを強調していくのでもいい。概要版というより目標値全体についてだが、数値一覧を見ると令和11年の目標が、令和5年度から比べてそんなに高くないものもあれば、意欲的に目指しているものもある。例えば、かかりつけ歯科医を持つ幼児の割合が27.2%から30%というのはそんなに増えていないように見える。小・中学生の朝食欠食率を小学6年生7.4%から6年後に1%にするのは意欲的な数値である。中間評価を考えていくときに、達成できなかったということは予想されるが、中間評価の時には、達成困難なのでこのようにやっていくという取組を考え、6年後やはり無理という数字になったときに、また同じ目標掲げると6年後も同じ目標掲げることになる。何が悪かったかを検証せず、目標値だけが引き継がれることが考えられる。愛荘町として全部の指標を一気に良くしていくのは無理だと思うので、意欲的な目標値にしたものについては、関係機関の協力を得て、これを基に取り組んでいただければいいと思う。取組の強弱を内部で設定して、その強弱に基づいて概要をつくるという。

曾我委員：概要版の4ページ目に、基本目標2のライフコースを見据えた取組の推進とある。前回の計画では「ライフステージ」となっていたが、最近「ライフコース」というのか。「ライフサイクル」という言葉もあるが、今回この言葉を利用しているのは強い意志があつてのことか。

事務局：国でも「ライフコース」という言葉を使うようになってきている。今まではライフステージごとの取組や課題を捉えて計画を策定していたが、人の生涯を時間の流れで捉え

るようになっている。青年期の人も青年期だけでなく、過去の生い立ちも関連するということで、生涯の一連の流れとして捉えて、一生を通じて継続的な対策を取っていったほうがいいのではないかとということで、ライフステージごとに区切るのではなく、ライフコースとして取組を考えることを国が進めている。町でも国に合わせて計画を考え、現行計画とは違う言い回しにした。

曾我委員：下の図を見ると、胎児期・幼少期の割合が多くて力点が置かれているように見える。高齢化社会で人口の割合は胎児期・幼少期 10%、若者・働き盛り世代 60%、シニア世代 30%くらいだと思う。シニアの人も概要版を見ると思うので、シニア世代の部分の充実を図ったほうがいいように感じた。

矢部会長：前期高齢者、後期高齢者と分けてもいいのではないかと。確かに小さい時が長すぎる。

事務局：町としては、健康寿命の延伸のためにどの世代に対しても力を入れていきたいが、特に今期は子どもたちにしっかり健康が身について、頭で考えて健康になって、青年期・壮年期に移行していけるよう力を入れたいところがある。高齢期については、介護保険の計画に細かく含めている。子どもから青年期、壮年期の働き盛り世代への健康への取組が上手にできていないところを考えて作った。見てくれる住民には高齢の方がいることを配慮して、前期・後期高齢者と増やして枠組みを広げていくことを検討する。

矢部会長：社会を動かしているのは若者世代なので、実は一番重要である。

事務局：そして一番うまくアプローチできない世代でもある。

矢部会長：続いて協議事項(2)について説明をお願いします。

事務局：(2)計画書の周知方法、各機関の取組の方向性について説明をした。

矢部会長：計画を住民に知ってもらおうということで、それぞれの立場から計画の取組について一人一人のご意見をいただきたい。

西村副会長：1－3、高齢者の方にフレイル予防についてということで、「噛む COME+10」について急遽プリントして、愛荘町ではこういう取組をしていることを説明した。去年まで秦荘の「愛荘 66 かまど祭」で歯科健診を無料でしていたことは知っていたが、今年は歯科健診と、健康づくり推進協議会のすぐとなり献血車がきて、ここが健康コーナーのようになっていた。住民が毎年多く来られていいなと個人的に思っている。年を取ると握力も落ちるし、無料で口の中を知る機会があるのはいいことだと思う。健康推進員も高齢者になってきて、新しい人が増えてほしいが、60、70代でもまだ働いて

いる方が多くてなかなか入ってもらえない。30 人前後いるが、実際に活動しているのは半数くらいである。健康推進員を知らない方もいると聞いたので、令和 7 年度も機会を捉えて愛荘町や健康推進員の活動を P R しながら頑張っていきたい。

矢部会長：確かに後期高齢者でも仕事をしている人が増えている。現役の人はシャンとしているので、仕事があれば就いてもらうのがいいと思う。

宇野委員：周知徹底というよりも、目標値に近づけるように特定健診、人間ドックの補助の増額を考えている。数値が分かってくるので、国保としてはそういう方向で取り組んでいく。

上林委員：数値目標が見やすいので、子どもたちや保護者に関わる数値を、愛荘町が目標値を定めていることを授業に取り入れて子どもたちに直接伝えていけたらいい。このような計画があることも子どもたちは知らない。

小川委員：愛荘町における健康活動の取組として、地域の皆さん向けに JA ドックを開催している。今年度は愛荘町民 34 名に愛知川支店で受診していただいた。生活習慣病の予防として、女性部の 100 歳プロジェクトということでミニ運動会を 10 月に開催し、65 名ほど参加した。年間を通じて健康講座を実施し、愛知川支店や秦荘支店でバランスボール、温活リンパマッサージ、フラダンスなども実施している。最近はペーパーレスが進み、Instagram や LINE などの SNS で周知して健康づくりのための活動を行っている。

矢部会長：高齢の方が走るのか。

小川委員：ミニ運動会なので全速力で走るわけではない。

矢部会長：一番高齢は何歳くらいか。

小川委員：資料としては出ていないが、大体 70 代までの方が参加している。

村西委員：青年代表ということで参加しているが、若者世代はこのような冊子があることも周知されていないし、健康への理解や必要性についてもまだ高齢者と比べると意識が低いことが前提としてある。概要版もすごく見やすいし、しっかり読むと理解が深まると思うが、そこまでたどり着けないこともあるので、工夫が必要かと思う。商工会の広報や配布物に概要版を折り込んでいただければ、町内にかなりの事業所があるので、周知として効果的ではないか。商工観光課を通じて商工会に打診してもいいと思う。「66 かまど祭」は町内でも大きなイベントで、去年も健康推進課にご協力いただいた。これからも商工会主体でそういう場を用意するので協力をお願いしたい。去年は愛知川

のすぐそこで実施したが、今年はラポール秦荘でやろうという話になっている。2年おきで秦荘、愛知川で、持ち回りでやる計画になっているので、ぜひ利用していただきたい。今はブースで出展する形だが、ステージを使って健康づくりの発信などもやっていただきたい。全体を巻き込んでやっていけたら効率良く周知できると思う。

矢部会長：一番健康を大事にしなければいけない世代だ。

村西委員：一番健康をおろそかにしている世代でもある。

矢部会長：健康診断で引っかかったりするとビビると思う。会社勤めの人には定期健診があるが、そうでない方も何かを利用して年に1回は健康診断を受けてもらいたい。

水谷委員：役場と比べて、図書館にはいろいろな世代の人が毎日来てもらえる。概要版だけでなく、ポスターやA4の紙1枚にポイントだけまとめて掲示・配布してはどうか。若者向けにTikTokなどでストレッチの動画を載せると見てもらいやすいと思う。健康推進課と一緒にイベントをやることもある。ブックリストを作ったり、病院の待ち時間で読んでもらえるよう図書館から健康に関する本を貸し出すこともできる。

小財委員：給食センターでは食育セミナーなど、町民向けのセミナーを年に2回ほど実施している。平日の日中なので年齢層は高めだが、普段の食生活に興味をお持ちの方などが参加してくださるので、そういう場で愛荘町の計画を話す機会があると思う。学校で食育の話をする機会もあるので、「噛む COME+10」など具体的な話を小中学生、幼稚園の子に話すこともできると思う。

矢部会長：「噛む COME+10」はある程度健康な歯がある人でないといけない。

曾我委員：入れ歯でも同等の効果がある。

平野委員：不特定多数の住民に何かしてもらうことをポピュレーションアプローチという。どんな取組が効果があるかという、「介入のはしご」という考え方がある。不特定多数に対して健康になってほしいけど、悪いところがあるのを知っていて黙っておくのが一番良くない。情報提供は介入の強さとしてはそんなに強くないので、行動変容までつなげることは難しい。介入のはしごで一番強い規制は、他の選択肢を削除して強制的にやらせることだ。情報提供は悪くない方法だが、周知することにどれだけ力を注いでも周知止まりなので、全戸配布してホームページに載せる程度でもいいと思う。それよりも何か行動したほうが早い。健康コーナーを設けることで、環境を整えて興味のある人に来てもらい、自然と健康になるようにする仕掛けのほうが早くて効果がある。折り込みチラシを配布する効果よりも、折り込みチラシ入れてくれる人を見つけて、

その人とつながりをつくる効果のほうが高い。関係機関に行動してもらうほうが早い。
「こういう計画があるから目標を達成するために何かしてほしい」と言えばめんどくさいと言われてしまうことのほうが多いと思うが、例えば飲酒を減らしたいという思惑があり、青年期の人たちの運動習慣を考えてマラソン大会を開くことで、年間を通してはそんなに効果はないかもしれないが、マラソン大会の日は飲酒しないことになる。図書館の企画で、漫画をたくさん置いて読みに来てもらうことで、副次的な効果で子どもたちがスマホに触る時間が減ることも考えられる。計画の周知はそこそこにして、取組を実施したほうがいい。健康推進課だけでは絶対に実施できないので、仕掛けをすることが大事ではないか。環境は既に整えられているので、自分たちでそれをいかに使っていくか、広げていくかだと思う。

矢部会長：理想を語るだけではいけないということだと思う。ほかに意見はないか。それでは事務局にお返しする。

事務局：副会長よりごあいさつをお願いします。

西村副会長：今年度5回の会議を通じて、健康あいしょう21第5期計画の策定を協議していただき、愛荘町の健康に関する現状、方向性をよく理解していただけたと思う。健康のためにどう動いていくか、やり方は皆さんそれぞれ違うが、健康という目標は一緒だと思う。最終的にはここにいる委員の皆さんの手腕にかかってくると思う。今日話したことを、目標だけでなく令和7年度から活動していくということで、それぞれできるところからコツコツとやっていけたらと思う。長期間にわたり出席いただき感謝する。来年度もよろしくお願いします。

事務局：次第3「その他」に移る。令和6年度は第5期の計画策定にあたり、5回の会議を持った。来年度以降は第5期計画に基づき、それぞれの分野での目標に向けた取組について、このような会議で共有していきたい。本日は素案について、計画の期間の見せ方や概要版でのライフコースの見せ方、チェックリストについてもいろいろなご意見をいただいた。事務局で修正し、会長に一任ということでよろしいか。

委員一同：異議なし

事務局：来年度以降に計画冊子と概要版を作成し、概要版を全戸配布する。商工会を通じ、町内の事業所にも配布したい。5回にわたり会議に出席いただき、計画策定のために資料確認等の作業をいただいたことにお礼を申し上げる。すべての取組が計画上のものとならないよう、目標値達成のため、丁寧に取り組んでいきたい。

以上